

サギの子育て

春になるとバードサンクチュアリでは、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギなどのサギ類やカワウが集団繁殖地（コロニー）を形成します。

メスだけが子育てをするカモとは違って、サギの子育てはオスも協力して行います。産卵後抱卵は1か月ほど続きますが、片親が抱卵の間、もう一方は川や河口へエサを食べに行きます。誕生してからもひなのためにエサをとりに行くのはオスとメス、両方の役割です。ひなは徐々に飛べるようになり、夏には親元を離れ巣立っていきます。

▲アオサギの交尾
集団で繁殖することで、外敵に対して集団防衛することが出来ます。コロニーが大きいほど、鳥にとっては安全です。



春から夏にかけてのバードサンクチュアリ



三重県内では繁殖地が少ないサギ

チュウサギ（県絶滅危惧Ⅱ類）

日本へ渡り、繁殖する夏鳥。三重県レッドデータブック2005によると、チュウサギの既知の集団繁殖地の数は10以下とされている。（写真はチュウサギのひな。バードサンクチュアリで森本さんが撮影。平成25年6月。）

チュウサギの貴重な繁殖地

日本のサギ類のなかでも最も大きい部類のアオサギは、翼を広げると1.6メートル程あるそうです。大型のサギは、ある程度高い木に営巣するので、この池周辺のユーカリなどの背が高く丈夫な木々を利用して営巣しています。

春に渡ってくるチュウサギの集団繁殖地は、県内ではわずかし確認されていません。ここは樹林のそばに池があり、工場敷地内ということもあつて、ほかの外敵が近づきにくくなっています。安全な場所であるため、チュウサギの希少な繁殖地になっていると考えられます。

また味の素では、バードサンクチュア리를、たくさんの人に訪れてもらいたいと、今年度から個人の見学受付と土曜日の見学対応を始めました。

藤岡さん「バードサンクチュア리를特に喜んで見てくれるのは、子どもさんたちです。子どもたちに見せてやりたいという気持ちで家族連れの方々もたくさんいらっしゃいます。」

池の隣に設置された観察小屋では、野鳥を観察できるほか、チュウサギの巣や孵化した卵の殻なども展示されています。バードサンクチュアリは地域の環境教育の場としても広く活用されているのです。

「味の素バードサンクチュアリ」へ行こう!

双眼鏡や望遠鏡を使って、野鳥を観察してみよう。また四季折々の美しいバードサンクチュアリのようすを映像で観ることができます。

「ほんたしん」工場を見学することもできます！（稼働時のみ）

バードサンクチュアリの昆虫たち



①「チョウトンボ」ひらひらと飛ぶ姿がチョウのように美しいトンボ。
②「ショウジョウトンボ」成熟したオスは全身真っ赤になる。
③「ゴマダラチョウ」エノキの木に産卵し、幼虫はエノキの葉っぱを食べて成長する。

可能日学

平日、土曜日 ※お問合せください
午前の部 10:00~11:30
午後の部 14:00~15:30

各回30名
(定員になり次第締切)

事前予約制・先着順 見学日の3か月前から5日前まで予約可能。

●個人(10名以下)インターネットにて予約受付
<http://www.ajinomoto.co.jp/kfb/kengaku/>

●団体(10名以上)電話にて予約受付
味の素 東海事業所 Tel:0120-170-153(平日のみ)



お申込み方法